

部活動実績 1年生大会 高校総合文化祭・ほか

平成24年度1年生大会	陸上部	個人	走り高跳び 第1位	1	5	大山 和茂
	個人	男子400M 第1位				
	ラグビー競技	団体	優勝			
平成24年度宮崎県ソフトテニス2年生大会	水泳	個人	女子100Mバタフライ 第1位	1	6	中武 玲
	個人	女子200Mバタフライ 第1位				
	バドミントン	団体	第3位			
第57回宮崎県吹奏楽コンクール	個人	シングルス 準優勝	1	1	三輪 珠美	
	個人		2	4	安松 直哉	
	個人		2	5	山口 雅崇	
第34回宮崎県高等学校総合文化祭	吹奏楽部	団体	高校Aパート 銀賞			
	団体	オーチビクチャー部門第2位				
	放送部	個人	朗読部門第3位	2	3	進 さくら
	個人	アナウンス部門第4位	2	5	津江 裕子	
	音楽部	団体	合唱部門 文化連盟賞			
	吹奏楽	団体	一般演奏 優良賞			
	団体	合同演奏 優良賞				
	文芸部	団体	文芸部誌部門 奨励賞			
	写真部門	個人	銅賞	3	5	柄本 千晶
	個人	九州大会選抜賞	1	7	恵利 芽衣	
書道部	個人	優秀賞	2	1	林 宏樹	
	個人	優秀賞	2	1	黒木 美波	
	個人	優秀賞	1	5	高橋 佳大	
	個人	奨励賞	2	2	山下 葵	
第76回NHK全国音楽コンクール宮崎県大会	音楽部	団体	銀賞			
	団体	銅賞				
第67回九州合唱コンクール宮崎県予選	音楽部	個人	ピアノ部門 金賞	2	4	後藤 早恵
第40回宮崎県高等学校独唱独奏コンクール	個人	個人	金賞	3	7	東倉 希望
全国高等学校家庭クラブ研究発表大会	家庭クラブ	個人	全国家庭科教育協会賞			

創立90周年記念式典および記念祝賀会について

本校は、今年創立90周年を迎えることになりました。つきましては、下記のとおり記念式典、記念特別講演会並びに記念祝賀会を挙行いたしますので、御案内いたします。

記念式典および記念演奏会（会場：本校体育館）

期 日 平成24年11月17日（土）9：15～12：00
 （受付8：30～9：05 体育館）
 記念式典 9：15～10：30
 記念演奏会 10：45～12：00
 「モーツァルト・カンマオルケスターによるオーケストラ演奏」
 その他 駐車場は町営球場をご利用下さい。

記念特別講演会（会場：高鍋町美術館）

期 日 平成24年11月17日（土）14：30～16：00
 （受付14：00～14：30）
 講 師 大上 敏男 氏（画家 S24卒）
 演題 「流るるままに～高校時代を振り返って～」

記念祝賀会（会場：ホテル四季亭）

期 日 平成24年11月17日（土）17：00～19：00
 （受付16：30～17：00）
 会 費 四 千 円



発行
 宮崎県立高鍋高等学校
 同窓会
 宮崎県児湯郡高鍋町
 大字北高鍋4262
 TEL 0983・23・0005
 FAX 0983・23・5096
 URL http://www.narumigaoka.jp/

本年度OB祭は、「元（はじめ）〜故郷から元気発信」をテーマに、平成元年卒業生が企画運営を担当し、八月十日、十一日の両日、無事に開催されました。

近年の、口蹄疫、鳥インフルエンザ、新燃岳の噴火、東日本大震災などの災害や、今なお続く経済不況など、苦悩が続く地域を、日本を元気にしたい気持ちを含めたOB祭に成るよう勤めてまいりました。

ゴルフコンペ、ちんどん屋「花ぶぶぎ二座」、エイサーチーム「高鍋しんかんちゃん」のオープニングイベント、地域再生の仕掛け人、デザイナー「梅原真」氏、八十歳現役プロスキーヤー「三浦雄一郎」氏の記念講演、大懇親会、いずれも盛会だったと感じております。

私たちは、今回のOB祭を通じて、母校と鳴海ヶ丘会の伝統の重さ、県内外、世代を問わず、それに関わる人々との繋がりの深さ、温かさを強く感じる事ができました。このような貴重な機会をいただいていたことを心より感謝いたします。

この経験を後輩たちに、しっかりと伝え、鳴海ヶ丘会、母校、地域の更なる発展に尽力を注ぎたいと考えております。

最後に、これまでご支援、ご協力いただきました、すべての皆様方に感謝申し上げます、挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。



実行委員長
 野崎 正史

平成24年度 高鍋高校OB祭のお礼

平成二十四年度高鍋高校OB祭を終えたことに対して達成感や安堵感を感じるとともに、この一年間の活動を振り返ってみると、いろいろなことが思い出されます。

このOB祭を成功させるため、平成元年に卒業した同窓生と共に、何度も協議し案を出しあつていく中で、衝突したり壁をぶち当たったり、時には押しつぶされそうなる時もありましたが、多くの関係者の方々にご支援・ご協力をいただくことで、最後までゴールを目指して邁進することができました。

今年度のOB祭のテーマを「元（はじめ）〜故郷から元気発信！」に掲げ、いかに多くの方々へ元気を発信していくかを考えながら、講演会の講師の選定や活動にも力を入れてまいりました。

私たち実行委員の活動に協力してくれた多くの同窓生が、OB祭当日も全国から集まり、楽しくそして真剣に力を結集してくれたこと、共に校歌・応援歌を歌って胸が熱くなったことは一生忘れることができません。

伝統ある高鍋高校の卒業生であることを誇りに感じるとともに、このような機会を与えてくださったことに感謝しております。

最後にになりましたが、鳴海ヶ丘会及び高鍋高校職員のみならず、県内外の先輩・後輩のみならず、地域住民の方々など、数多くの方々にお世話になりました。ご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

今後も鳴海ヶ丘会の一員として、この経験を次年度以降に引き継ぎ、高鍋高校を末永く応援していきたいと思っております。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。



事務局長
 松浦 郁雄

平成24年度OB祭を終えて

各支部からの報告

関西支部事務局 石田 公俊

七月二十一日（土）道頓堀ホテルに於て、同窓会本部から増田会長、猪股事務局長、母校から首藤校長、近畿宮崎県人会副会長の林田様等の来賓ご臨席の下、総勢九十九名が集い開催されました。永友会長の挨拶が始まり、高鍋高校同窓会「育英会奨学金制度創設」に関して述べられ増田会長のご挨拶の時は一寸したハプニングがおこりました。司会が進行時間に気をとられ「挨拶の時間は短く五分程度で有意義なお言葉を頂戴します」と切り出したものから、会長も戸惑われ「私の挨拶が有意義なものになるかどうか分かりませんが」とユーモラスに返されたものですから会場が大笑いとなり、重苦しい雰囲気が一瞬にして和やかな空気に包まれる一幕となりました。

アトラクションでは元宝塚スター男役の難波京子さんに歌と巧みなトークを披露していただいた後、歌声喫茶風に「高校三年生」「故郷」の二曲を合唱して楽しい一時に酔いしれました。

福引抽選会では、沢山の方にご提供頂いた焼酎（吉助・百年の孤独等）地方の有名ラーメンセット、LED電気器具などが参加者全員に行きわたり喜んでいただきました。

今年も本部から新・旧のOB実行委員に駆けつけていただいたこともあり、若い参加者が増え会場を盛り上げていただきました。本当に有難うございました。

最後は万歳三唱の後、佐藤副会長の力強い締め言葉で無事終了となり、来年も同時期に再会出来ることを願いつつ散会しました。



平成二十五年OB祭実行委員会を担ぎます平成二年卒業生を代表しまして御挨拶申し上げます。

早いもので高鍋高校を卒業して二十二年が経過いたしました。いつの間にか年齢も四十を過ぎ、社会の中核を担わなければならない年代となり、そして四十一歳を迎える今年、OB祭実行委員の大役を頂くことになりました。諸先輩方が築き上げてこられた伝統を引き継いでいく重責に身が引き締まる思いで一杯です。

さて、児湯地域を中心に拡大した口蹄疫被害は、終息宣言から二年が経過した現在においてもその経済的・精神的打撃は未だに癒えておらず、また、未曾有の被害となった東日本大震災は、原子力発電所事故を伴い、全国にその影響を及ぼしています。日本経済は低迷を続け、ギリシャに端を発したヨーロッパ金融不安によ

り一層混迷を深め、また、最近では隣国との領土をめぐる問題で、政治経済は混沌とし、憂いばかりが先立つ闇の時代を迎えております。我々全国各地で、この困難を乗り切るべく活躍されている諸先輩方をはじめとする関係者の皆様方に、この高鍋のOB祭から、少しでも力を届けることができようOB祭を開催したいと考えております。

平成二十五年OB祭の開催にあたりましては、皆様方の御期待に沿えるよう平成二年卒業生一同力を合わせて取り組んでまいれる所存でございますので、どうぞよろしく御願い申し上げます。

何かと至らない点もあるかと思いますが、皆様方の御協力を賜りたくお願い申し上げます。



平成二十五年OB祭実行委員長
 石村 幸広

平成25年度OB祭に向けて

在京支部第45回総会報告

在京支部局長 兒玉 博

東京支部の総会は、七月一日（日）、大手町のサンケイプラザホールで開催されました。

高鍋の方からは、増田会長並びに首藤校長、猪股教諭に加え、前年度並びに、今年度のOB祭の実行委員の方達の参加があり、参加者総数は二十九名となりました。

会長並びに校長先生の挨拶から、高鍋高校の文武両道での活躍に期待が膨らむ一方、少子化の進む中で、学校経営の厳しさが増し、卒業生としても、何らかの協力をせねばならぬと再認識をいたしました。

総会では、本年は二年ごとの役員改選の年でしたが、現会長の中野秀樹さん（S三十年卒）の留任が決まりました。

その後のフォーラムでは、日本大学名誉教授の河野均也さん（S三十年卒）から、長年携わってこられた「臨床検査」の研究・開発について講

話を頂きました。五十年に亘る発展の歴史と、その間のご功績、大変興味深いものでした。

今年もまた、協賛の品として、高鍋黒木本店様（焼酎）、川南甲斐製茶様（お茶）及び都農役場（ワイン）と、加えて当会員の経営する企業から食事券、花等と多数頂きました。

それらは、抽選会の景品として使わせて頂きましたが、一部は、来場のみならず賞味して頂きました。それらのお蔭で、会場は大いに盛り上がりました。あらためて、ご協賛頂いた企業と、暑いさなかにご臨席頂いた、ご来賓の方々にお礼を申し上げます。

来年は、七月十三日（土）と決定しております。多数の方のご参加をお待ちしております。



平成24年度OB祭を振り返って

OB祭実行委員事業運営局長

緒方 直樹



今年のOB祭が無事成功したことを報告するとともに、ご支援くださいました皆様にお礼を申し上げます。

さて、記念講演についての感想です。今年一月二日に平成元年卒の同窓会を開催し、「元」は始まり、故郷から元気発信がテーマに決まっていたから講演者選定に入ったわけですが、この選定が大変であったと今更ながら思います。このテーマに即した記念講演を行うには二通りの考えが意見として上がりました。一つは、「地方から景気・経済を盛り上げる」ともう一つは「元気を発信する」との生きがいを「地方から」企画運営部会は「地方から」のテーマに最適な人物を推してくれました。しかし実行委員会全体の意見をまとめるとなると十人十色、もう一つも取り入れたいなどのいろいろな意見がでてきます。結果、実行委員長の鶴の一声で二名の講演者が決定しました。正直、講演者が決まりました。正しく、講演者と同時には予算やチケット代金はどのようにするの？企画運営部会にこれ以上の負担が増すのはどうか？など複雑な思いがありました。準備を進めていく同級生が丸と違って頑張る姿をみて、そんな心配事は杞憂であったと思ひ、絶対成功すると確信しました。また当日、両方の記念講演共に好評で「来て良かった」「参考になった」等言われたことがうれしい限りでした。この一年間最高同級生達と一緒にOB祭を担当できたことに感謝します。



"笑ってる、笑ってる!"

生徒会長 平尾 和瑚



先日、たくさんの笑顔であふれた鳴海ヶ丘祭が行われました。あらゆる場面で生徒の活躍、新企画や鍋高を彩る装飾といった今までとは一味違う鳴祭だったと思います。これも57名の実行委員が中心となった準備、運営、最高のものにして"という気持ちを感じていました。

生徒みんなが持ち続けていたからではないでしょうか。"shine"革命を起こす君の手で"のスピーカーのもと、この三日間を通してそれぞれ自分のなかの何が変わったかと思ひます。きらきらした青春の1ページをなかに一人一人がとても輝いていました。



ファッションショーを終えて

307 林 美咲

皆さん、ファッションショーは、楽しんでいただけましたか？今年も「Wonder Land」というテーマを掲げ、夏休みや放課後を使って衣装製作に取り組んでくれました。また、演出や装飾などの細かい所にも力を入れました。この感謝を忘れず、より深まった絆で残り少ない卒業まで時間を過ごしていきましょう。本誌にありがとうを言いたいです。

合唱コンクール

303 田爪 幹太

手を振り上げる。ホールの中にどこか吹っ切れたような清々しい歌声がこだまします。

正直不安だった。指揮者である私が練習に参加できなかったのは、後期課外から。しかも、一日一時間程度の短い練習。これではどうやっても金賞獲得は不可能に思われた。しかし、本番当日、「何とかなる」楽天的な三組の性格呼応するかのようになり、今まで一番美しく、そして楽しい合唱になった。



最高の鳴祭

301 仁田脇 翔吏

最初、団長を引き受けた時に不安は全くなかったのですが、いざやってみると集団をまとめることの難しさに直面し、プレッシャーに押しつぶされそうになったこともありましたが、そんな中、リーダーや団員の協力を得て全員で作上げた体育大会

は、自分にとって最高の思い出となり、みんなに感動を与えられたことができたと思います。また、今回団長をして改めて支えてくれる人たちの大切さに気付くことができました。計画や準備を下さった先生方をはじめ、この鳴祭を最高のものにするために動いてくれた全ての人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。最高の思い出と貴重な経験をありがとうございました。



感動

304 那須 勇哉

いつも勢い任せの那須勇哉。今まで大事なところでミスもしてきました。

そんな私を団長にしてしまった青団。ご迷惑をおかけしました。「他の団と同じ応援はしない」と決め、必死に応援していたので、団員は大変だったと思います。もちろんリーダーにも迷惑かけました。困ったら「何とかかなる」が口癖の私でしたが、装飾が「何とかかなる」本番当日を迎えてしまいました。当日朝早くリーダーに来てもらい完成できた時、みんなの力の大きさに感動しました。その甲斐があつて応援優勝を手に入れることができました。すべて青団全員のおかげです。ただ、最後の団対抗リレーは悔いが残りますが、多くの方々の支えがあり、最後まで大役を果たすことができました。ここに感謝と反省の気持ちを込めたいと思います。



ありがとう

306 高橋 佳祐

解団式が終わるとホッとしました。思えば最初の頃は団長が嫌だった。他の団の団長は勇哉と翔吏で自信が持てず絶望的だった。そんな中、副団長、リーダー、補佐が決まり赤団が発足した。自分はダンスも踊れずエールもできず何も出来ない頼りない団長だったが、ダンスは女子がエールも副団長とそれぞれの担当を中心に皆一つになり協力をしてくれました。また、応援は同じクラスの皆が後押ししてくれました。最初は今一積極的でなかった1・2年生も体育祭が近づくとつれてだんだんと協力的になり団が一つになったと思えました。本当に感謝している。いつも支えてくれた副団長・リーダー。補佐そして団の皆ありがとう。皆の支えがなかったら私は団長をやりきれなかったと思う。この体育祭は私の人生で一番の思い出に残るものになった。本当に感謝している。ありがとう。



なんきんはぜ

毎朝、並木道の四季の移り変わりに感じながら、登校して来ました。時には、朝課外に遅れそうになりながら全速力で走ったり、また時には、夕課後の真つ暗な道を走ったり、この並木道は私の高校時代の思い出のひとつです。先日、三年生の教室にテスト監督に行った際、教室から見ると並木道の爽やかさに、思わずうっとりしました。ただ当時は、普通科が九クラスもあつたので、私の三年時の教室は、現在の第四棟の自習室辺りになるのではないかと思います。このように、自然を身近に感じることが出来る恵まれた環境の高鍋の地で、有意義な三年間を過ごすことができました。確かに高校時代は、朝から夕方までの授業に、日々の課題など苦しいことも多かったのですが、その三年間を乗り越えられたからこそ、今の自分があるような気がしています。

今でも忘れられないのが、他の学校では珍しい水泳の補講です。高校二年生の時、あと一回の補講で終了というところになって、バイク通学の友人が、転倒して足に怪我をしてしまいました。抜糸が終わるまで水泳は禁止されているからと、その友人に懇願され、彼女の回復を待ちました。季節はもう晩秋だったと思います。怖い体育の先生の観察のもと、二人で寒さに震えながら、無事補講を終えました。今となっては、いい思い出です。

さて、ロッキー山脈の標高三千メートルの所に、樹木限界線があるそうです。その樹木は、強風のせいで土下座のような格好をしています。厳しい自然を生きるにはそうならざるを得ないのです。世界一の名器と言われるバイオリンは、その木で作られています。自然の厳しさに耐えた木こそが、世界一の音色を奏でるのです。さまざまな困難に耐えていくことで、美しい人生を送ることができるのではないのでしょうか。

(岩元 千華)